

クリスマスローズの育て方

欧米でクリスマスローズと呼ばれるのは、1～3月に白い花を咲かせるヘレボルス・ニゲル。しかし日本では、2～3月に開花するヘレボルス・オリエンタリスがクリスマスローズとして普及しています。クリスマスローズの仲間は、キンボウゲ科に属し、ヨーロッパ、西アジアなどに約20種が分布します。

鉢植えの栽培管理

置き場所 暑さが苦手なので、夏は風通しがよい半日陰に置いて涼しくします。秋から春は日によく当てます。

植え替え 根が回った鉢は10月から3月までの間にひとまわり大きな鉢に植え替えるか、ドライバーの先などを使って数芽ずつに株分けして植えつけます。用土は排水性、保水性に富んだものを使います（例：赤玉土：腐葉土：軽石小粒＝6：3：1）。

施肥 夏を越し生育が開始する秋と開花後の春に、緩効性の肥料を施します。加えて、生育状況を見ながら、月に1～2回程度、液体肥料を施します。夏には生育が衰えるので肥料を与えず、根腐れしないよう乾燥ぎみに管理します。

地植えの栽培管理

夏には半日陰となる落葉樹の木陰などに植えつけます。排水が悪い場所は、盛り土をして改善します。肥料は、秋と春に緩効性のものを施します。地表面を腐葉土で覆えば、冬の寒風や夏の極端な乾燥を防ぐ効果があります。数年経つと株が混み合ってくるので、鉢植え同様、株を分け、植え替えるとよいでしょう。

繁殖 6月ごろ熟した種をとりまきするか、湿ったミズゴケなどに包んで保管し、9～10月にまきます。3月ごろ、に本葉が出た苗を3号ポットに移植します。3～5年で開花します。



地植えの仕方

種子の上に用土を1cmほどかぶせる

赤玉土

種まきの仕方

年間管理(鉢植えの場合)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場所	日当たりのよい所					半日陰・遮光 風通しのよい場所				日当たりのよい所		
水やり	用土の表面が乾いたらたっぷりと					乾燥気味にする				用土の表面が乾いたらたっぷりと		
施肥	緩効性肥料を開花後1回 液肥を月1～2回					緩効性肥料を生育後6月に1回						
作業	植え付け、株分け、植え替え				種まき			種まき 植え付け、株分け、植え替え				